

SUPPORTERS

サポーターズ No.166 2025 秋号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ

<http://ypta.jp/>

会員数 930 名 施設数 185 (R7.8.26 現在)

「supporters (サポーターズ)」とは… 我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形のsを加え、supporters：支える人たち（造語）の意味です。

「介護予防推進・健康増進キャンペーン」



2025年7月13日 イオンモール甲府昭和店にて

CONTENTS

会長挨拶	2
令和7年度一般社団法人山梨県理学療法士会定期総会報告	3

私の科学の学び方 ～SFを交えてBMIの話しませんか～	4～5
活動報告	6～7
お知らせ	8
リレーエッセイPart48 原稿募集 編集後記	10～11

会長挨拶

Message from Chairman

山梨県理学療法士会 会長

磯野 賢

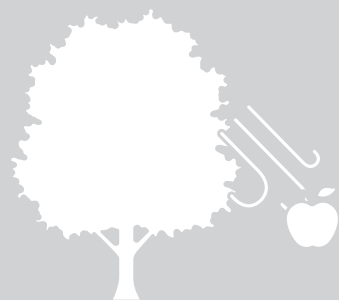


みなさんこんにちは。6月24日に山梨県理学療法士会令和7年度定期総会が開催され、今年度がスタートしました。県士会としまして、活動が広がりを見せる中ではありますが、組織率の問題やそれに伴う事業予算の問題もあり、継続的な運営を考え改善を図っていかなければなりません。そのような課題があるなかでも、重要な多くの事業を計画しております。この事業をレベルアップしながらしっかりと実施するとともに、今年度も「横のつながり作り」に取り組んでまいります。引き続き皆様のご協力・参加があつての士会運営となりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

さて今回は、「私の科学の学び方」というテーマをいただきました。自慢ではありませんが、学生時代の不勉強もあり、科学という言葉は、教科書の中にあるものであり、試験のために覚えるべき知識の集合という存在だったように思います。

しかし、理学療法士としての道を歩み始め、臨床の現場に立ち、目の前の患者さんの歩行や動作のひとつひとつに向き合ううちに、「なぜそうなるのか」「なぜこの方法が効果的なのか」と問い続けることが、私の科学の学びの原点になりました。それをどう学ぶかということですが、私が大切にしてきたことは、目の前で起こることをまず“ありのまま受け入れる”こと。解釈する前にそのまますべてを正確に把握することです。これができないと見ているようで見ていないことになります。それから始めて今正しいとされていることと矛盾がないか照らし合わせる。でも理学療法士として面白いのはこれからです。仮説を立て試行錯誤し、謙虚に検証を繰り返す。そして知識と技術と目の前の現象あるいは結果が一致した瞬間初めて喜びを感じることが出来るのではないのでしょうか。

科学はいつも目の前にあり、いつも変わっていくものと考え、これを見定められるように常に自分自身が成長する必要があります。これが理学療法士としての成長だと思います。科学を学ぶということは、自分の「当たり前」を見直し、問い直す機会です。そして、何よりも目の前の人の力になりたいと思う気持ちこそが科学を生み出すものと思っています。その気持ちを持ち続ける力こそ理学療法士には必要ではないでしょうか。



科学は観察の拡張であり、
技術は製作の拡張であり、
数学は理解の拡張である
:マイケル・ポランニー
:個人的知識 脱批判哲学をめざして

令和7年度 一般社団法人山梨県理学療法士会

定期総会報告

令和7年6月17日（火）に行われた、「一般社団法人山梨県理学療法士会 令和7年度 定期総会」についてご報告いたします。

1、定足数の報告、出席者・委任状について

令和7年5月20日現在、正会員数902名に対して

- ・出席者数47名
- ・委任状数547名

よって、一般社団法人山梨県理学療法士会定款、第21条に則り総会は成立いたしました。

2、議事

提案されたすべての議事について、承認がされました。

- ・監査報告の総括にも記載があった、物価上昇に伴い、必要経費を考慮した士会運営においては、会報誌のデジタル化の提案もあり、検討を進めていくこととなった。
- ・第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会の山梨での開催に伴い、士会員の更なる協力依頼があった。士会運営においては、更に検討を重ね充実させていきたいと思います。

総会の議事録や組織図は当士会HPに掲載されていますので是非一度ご覧になってください。

本年度の総会は、数年ぶりの参集形式での開催となりました。厳粛な雰囲気の中、議事を進めることができました。皆様のご協力のおかげで無事総会を開催することができました。ありがとうございました。

事務管理局 局長 山下浩樹（甲州リハビリテーション病院）
yamanashi.pt.jimu@gmail.com



山下浩樹事務管理局長



定期総会の最後に表彰がありました。
有泉副会長、協会賞受賞おめでとうございます。

私の科学の学び方

～SFを交えてBMIの話しませんか～

私の科学の学び方は、一貫して「人との対話」に支えられてきました。幼い頃、好奇心旺盛な私の「なんで？」という問いに、父は根気強く答えてくれました。自宅にあった科学雑誌『Newton』（当時、何故か父が購読していました）の挿絵を見ては、その都度父に質問を投げかけ、幼いながらも科学の世界に触れる機会を得ていたのです。中高生時代には、塾の先生が勉強だけでなく、漫画（AKIRA、ぼのぼの）や海外小説といった刺激的な文化を紹介してくださり、知的好奇心の幅を広げていただきました。

その後の大学での経験や学びはとても深く残っています。当時教員でいらっしゃった吉尾雅春先生は、我々学生の質問に対して答えを与えることは無く、延々と続く禅問答のようなディスカッションをして下さいました。この経験から私は自ら疑問を持つこと、そして根拠を持って問題を解決していくことの重要性を学びました。これは、理学療法士として日々の臨床に向き合う上で、極めて重要な科学的思考の基礎となりました。また、石川朗先生からは、仲間と共に楽しみながら学ぶことの喜びを教えていただきました。ゼミ合宿や先生のご自宅での忘年会といった場を通じて、和やかな雰囲気の中で共に学びを深める経験は、研究活動における「学びの共同体」の心地よさを感じる原点だったのかもしれませんが。卒業論文では、音楽好きな私に「呼吸ラジオ呼吸体操の考案」というユニークなテーマを与えてくださり、これが後に「ながいき呼吸体操」として出版され、学びと実践が結びつく面白さを実感しました。

臨床実習では、患者さんの抱える問題に対し、これまでに蓄積されたエビデンスを適用し、課題解決へと導く過程を学びました。当時（1990年代後半です）、EBM（Evidence-Based Medicine）が広がりつつあった時期であり、私がお世話になった各施設のスーパーバイザーの先生方は全員が学会活動、論文執筆を行っていました。EBMに基づいた実践の重要性を肌で感じることができました。

就職し、最初の上司である池田誠先生からは、「他流試合をたくさんした方がいいよ」と勧められ、日常業務の傍らで研修会や学会に積極的に参加し、自己研鑽を積むようになりました。次の上司である小林伸一先生は、「武器（＝理学療法士としての専門性）を持った方がいいぞ」とよくおっしゃり、専門性を追求することの意義を教えてくださいました。これらの言葉は、理学療法士としての「軸」を確立する上で大きな指針となりました。

科学は、科学者たちの
自由な相互交流によって進歩する
“自己調整的な共同体”の活動である。
：マイケル・ボランニー
：科学者の共和国



学会活動への一步を踏み出すきっかけとなったのは、帝京科学大学の廣瀬昇先生に師事したことでした。私が勤務する施設内でまとめた転倒転落に関するデータを、廣瀬先生にご指導いただき、共同研究として学会発表する機会を得ました。当時は統計解析について全く知識がなく、全て先生にお願いしていましたが、その後も心臓リハビリテーション学会などで発表を続けることができました。

30代では中間管理職となり、職場のマネジメントについて深く学びました。ビジネス書を読み漁り、組織運営やリーダーシップといった新たな知識を吸収していきました。そして30代後半、私は大学院受験を決意しました。その目的は、臨床研究を体系的に学ぶことで、自身の勤務施設の臨床の質を向上させることでした。これは、当時の私に課した重要なミッションでした。

大学院での日々は、まさに研究の「イロハ」を学ぶ貴重な時間でした。年齢や役職を超えて自由闊達に意見を交わせる「学びの共同体」は非常に心地よく感じられましたが、ゼミで研究計画を発表する度に、若い院生たちから私の拙い計画は厳しく「突っ込まれ」、苦しみ抜き、悩み抜いた果てに、ようやく形になるという過程を繰り返しました。当時は相当に疲弊しましたが、今となっては、あれこそが大学院生が皆経験する成長の過程なのだと理解できます。この経験は、批判的思考を受け入れ、より良いものへと昇華させる科学的なプロセスそのものでした。

現在、私は教育現場に身を置いており、これまでの経験に加え、教育そのものを学ぶことが新たなテーマとなっています。また、臨床現場へ目を向けると、理学療法は自然科学であり、常に進歩していくものだと考えています。私自身の学びは、常に人との対話や協働によって深められてきました。今後は、さらに多くの方々と共同で臨床研究を進め、日々の臨床実践をより良い方向へと変えていくことを積み重ねていきたいと願っています。

山梨県理学療法士会の皆様、私自身の「科学の学び方」を振り返り、改めて気づかされるのは、学びとは決して一人で完結するものではなく、常に他者との関わりの中で豊かになっていくということです。科学的探求は、時に困難を伴うかもしれませんが、その過程こそが私たちを成長させ、臨床の質を高める原動力となります。このコラムが、皆様の「調べてみよう、学んでみよう、考えてみよう、研究してみよう」という知的好奇心を刺激する一助となれば幸いです。



「科学は孤立した個人の努力ではなく、信頼・批判・共有を通じたコミュニティの営みとされる」ってことだね。

各部活動報告

認知症スタンプラリーへの参加

2025年6月1日(日)、金川の森にて「認知症スタンプラリー」が開催されました。主催である山梨県作業療法士会が、9年前から行っているイベントで、今年度から山梨県リハビリテーション専門職団体協議会も加わり参加してきました。当士会のブースは、体力測定としてロコモチェックやグッズの配布、運動指導を実施しました。

スターボックスの試飲やアロマ体験、ショートタイムとして山梨県立大学生による少林寺拳法の演武や認知症当事者が講師となり行うヨガ体験など13団体が参加し、専門職・行政・認知症当事者・地域住民が交わる「ごちゃまぜ」の空間が生まれました。

天候にも恵まれ、ロコモチェックは100名近くが参加する盛況ぶりでした。今後も「認知症の人もそうでない人も暮らしやすい社会」の実現に向けて活動に参加していきます。ご協力をお願いします。



石和温泉病院 清水 真治

★ お問い合わせ先：認知症対策委員会 E-Mail : ynintisyoupt@gmail.ne.jp

東海大学付属甲府高等学校女子バレー部、初のインターハイ出場！



2025年6月22日、東海大学付属甲府高等学校女子バレーボール部に、歴史的な日が訪れた。県予選を勝ち抜き、初めて県の頂点に立ち、インターハイ出場を決めた瞬間だった。

我々スポーツ理学療法部が、かわり始めたのは9年前、当時部員は3年生が3人、1・2年生も少なく、監督も変わったばかりの状況であった。実力はあるのに、接戦になると勝ちきれない。そんな時期が長く続き、準決勝や決勝ではいつも悔し涙を流していた。

スポーツ理学療法部での役割は医療的、コンディショニング的ケア全般であったが、2年前からチームにはフィジカルコーチ、メンタルコーチが加わり、心技体、選手は本当に成長した実感がある。選手たちの頑張りはもちろんのこと、今回の勝利は、スタッフ一人ひとりが自分の役割を果たし、スタッフ間でも連携をとりながら目標に向かって取り組んだ、チーム全体の力によるものだと感じている。

この記事が出るときにはインターハイの結果が出ている。きっと春高バレー出場に向けて猛練習をしていることだろう。

東海大学付属甲府高等学校女子バレーボール部を皆さん、ぜひ応援よろしくお願いします。



山梨大学医学部附属病院 リハビリテーション部 小林幸一郎
★ お問い合わせ先：業務推進局スポーツ理学療法部 E-Mail : kokobayashi@yamanashi.ac.jp

第44回 関東甲信越ブロック 理学療法士学会のお知らせ

令和7年11月15日(土)・16日(日)の2日間、アピオ甲府タワー館にて「第44回 関東甲信越ブロック理学療法士学会」が開催されます。今回のテーマは「今いる場所とその先の未来へ～新時代を生きる理学療法～」です。理学療法を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症やAI・ICTの進展、2025年問題など、かつてないスピードで変化しています。本学会では、こうした変化をふまえ、今私たちが立っている場所と、これから進むべき道を見つめ直す機会として開催いたします。

学会の内容は、基調講演、特別講演、教育講演、口述・ポスター発表などを予定しています。特別講演には、日本理学療法士協会 斉藤秀之会長をお迎えし、理学療法士の未来と組織の役割についてご講演いただきます。教育講演では、各分野の第一線で活躍される講師陣を招き、実践に直結する貴重な知見を共有していただきます。講師は、神経：山口智史氏、運動器：対馬栄輝氏、呼吸：山田洋二氏、介護予防：山田実氏、スポーツ：成田崇矢氏、教育：薄直宏氏、義肢装具：豊田輝氏と、多彩な顔ぶれです。

関東甲信越ブロック学会は、1都9県の持ち回りで開催されており、山梨県での開催は10年ぶりとなります。県内外の理学療法士が一堂に会し、学び合い、交流する絶好の機会です。これからの理学療法の可能性を広げるきっかけとして、多くの会員の皆様のご参加・ご協力を心よりお待ちしております。秋の甲府でお会いしましょう。



第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会
今いる場所とその先の未来へ
～新時代を生きる理学療法～

大会長 磯野 賢
甲州リハビリテーション病院

2025
11/15 SAT
» 16 SUN

開催場所：アピオ甲府 タワー館
〒409-3866 山梨県中巨摩郡昭和町西条3600



X QRコード



@44THKANBLOPTCONFERENCE

Instagram QRコード

事前登録は下記のURLより申込ください。

<https://www.gakkai.co.jp/ptkanburo44/>

大会準備委員長 小林 司
石和温泉病院

第4回 山梨県リハビリテーション専門職 合同学術大会



他都道府県でも稀にみる、理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会、合同の学術大会。
大盛況の中、両日行えました。

2025年2月1・2日



／ 途絶えることのないバトンを君に ／

リレーエッセイ

///

『リレーエッセイ』
とは…

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前の Supporters にあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

リレーエッセイ

Part 48-1

一宮温泉病院 雨宮 一輝

貢川整形外科病院の田中博之先生からバトンを受け取りました、一宮温泉病院の雨宮一輝です。

みなさんは富士山に登ったことがありますか？健康増進や腰痛予防のために運動は欠かせない。理学療法士としてそう感じる日々の中、自分自身の体づくりにも取り組もうと、この夏、富士登山に挑戦することを決めま

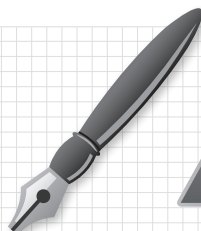


した。2025年度からは入山料の義務化や夜間登山の規制強化、事前登録制度の導入など、登山にも「準備と計画」がより求められるようになりました。これは、健康づくりにも通じる点だと感じています。登山を安全に楽しむために、普段の生活の中でも坂道歩行や体幹トレーニングを取り入れています。一歩ずつ積み重ねることの大切さは、理学療法の現場でも通じるものがあります。無事に登頂できるよう、運動の習慣化を自分自身でも実践しながら、患者さんにも運動の重要性を伝えていきたいと思っています。

次回は山梨リハビリテーション病院の中嶋将人先生にバトンを渡します。よろしくお願いします。

原稿を募集しています！

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。



！
注意

内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

※ 第167号発行は、
2026年3月を予定しています。

● 問い合わせ先：事務管理局 会報部 宇月正明
春日居総合リハビリテーション病院
TEL：0553-26-4126 FAX：0553-26-4366
E-mail：kaihoushiyamanashi@pt@yahoo.co.jp

原稿の締め切りは

1月中旬です。

Part 48-2

株式会社キクコア 菊池 雅樹



株式会社キクコアで代表をしている菊池雅樹です。芦川さんよりバトンを受け取りました。

私は一昨年、理学療法士として起業し、現在は介護事業と自費リハビリ事業を運営しています。理学療法士としての歩みも15年目を迎えました。これまで関わってくださったすべての方々に、心から感謝しています。私がこの仕事で何より大切にしているのは、「常に考え、行動すること」、そして「ワクワクを提供すること」です。目の前の利用者さまの笑顔や、できるようになった瞬間の輝きを見るたびに、理学療法士である喜びを実感します。「こんな場所があったらいいな」「こんな支援ができれば嬉しいな」、そんな想いを形にするため、仲間と共に挑戦を続けています。どんな小さな前進でも、地域の希望の一つになれると信じ、これからも情熱を持って突き進みます。皆さまとまたどこかで繋がれる日を楽しみにしています。これからも、よろしくお願いいたします。

次回は社会福祉法人笹の葉会 放課後等デイサービス「すばる」の中込悠太先生にバトンを渡します。よろしくお願いいたします。

編集後記



全ての医療・福祉に従事している方々と、お忙しい中、快く執筆をしていただいた諸先生方に感謝申し上げます。

さて WORLD EXPO 2025(大阪・関西万博)で、とても興味を惹かれるイベントがあった。

2025年6月24日、O-MU-TSU WORLD EXPO、「おむつ」である。コンセプトは「障害があっても、排泄の悩みがあっても、誰もがオシャレを楽しめる世界へ。」とある。主催は日本福祉医療ファッション協会、2024年2月に設立。この団体を調べると、設立までの経緯も面白い。

福祉と医療に「ファッション」がコンバージェンス、私の「おむつは白い」という固定観念を見事に打ち砕いたイベント。現場で見たかったなあ。副代表理事が元理学療法士ということもあるだろうが、このイベントの後援に日本理学療法士協会の名もあった。そうでなきゃなあ。

また会報誌発行の際には引き続きご協力お願いいたします。

宇月 正明

- 【発行】 一般社団法人 山梨県理学療法士会
- 【代表】 磯野 賢
- 【企画・校正】 宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 清水 真琴
- 【編集・印刷】 株式会社 たけまる
- 【会報部】 〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
医療法人 景雲会 春日居総合リハビリテーション病院
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366
E-mail: kaihoushiyamanashi@yaho.co.jp



